

他専修・コースの学生が教科専門を受講することの考察

技術教育・森慎之助

1. 授業の概観

本授業は，技術教育の免許を取得するために必要な必修教科である。1 回生後学期に開講している。ここでは，金属を加工するための種々の方法，代表的な切削材料の特徴の教授を主体とし，その中に実習を含めて講義を行う内容である。教科書を片手に，できる限り実際の工具，材料，機械を前にして触れさせる体験を積極的に取り入れた授業を行っている。学生にとっても教科に掲載されている材料や工作機械の図を見て，知識に換えるのではなく，実物を見ながら教員が解説を加えるほうが反応がよく，より深い知識の蓄積できると思われる。

2. 授業評価法

評価はアンケート形式で行った。評価のための項目は授業法，教育媒体，難易度，達成度，満足度，科目独自などからなる 8 項目で構成し，5 段階評価で行った。表 1 にアンケート質問内容を示す。受講生の内訳は技術専修 3 名，数学専修 2 名，社会科専修 1 名，情報教育コース 2 名の計 8 名である。

表 1 アンケート質問項目

設問番号	設問内容
(1)	教官の話し方や説明により，授業内容(概念，理論など)が，わかりやすく講義された。
(2)	授業の内容・レベルはあなたにとって適切だった。
(3)	授業を受講した目的が達成できた。
(4)	本授業により新しい知識，概念，技能を身につけることができた。
(5)	金属に対して面白さを感じてきた。
(6)	自分の生活周りに使用されている材料に対して見方が変わってきた。
(7)	ものづくりに対して興味がわいてきた。
(8)	実際に金属加工してみたいと思う。

3. 授業評価結果

回答結果を図 1 に示す。グラフ内の数値は人数を示す。1 名の学生からはすべての回答が全否定であった。かなり感情的な意味合いが入っているようである。他の 7 名からは設問(2)の授業レベルは「適切」から「やや難しい」の回答を得ており，学習内容的には教員の狙うレベルであった。

□ そう思う □ ややそう思う
 □ どちらともいえない □ ややそう思わない
 □ そう思わない

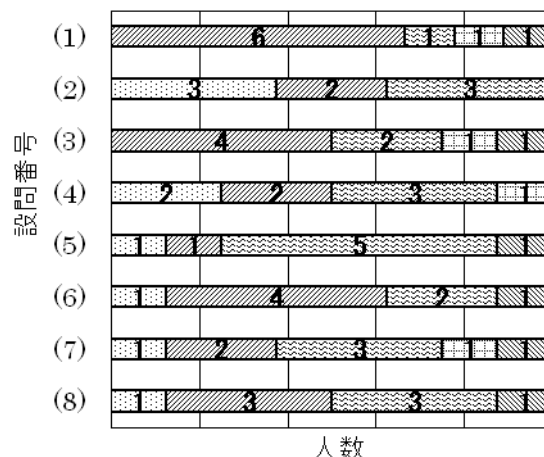


図 1 回答結果

設問(4)と(7)の回答から，金属材料と加工に関して興味・関心は高まるようである。しかし，試験の結果から理解の度合いはかなり低い。成績内容として，良：2 名，可：5 名，不可：1 名であった。この 7，8 年間で最も受講生の評価が低くなった。毎年，この講義のまとめとして，重要とする項目をプリントにして配布している。試験問題もその項目から選択するので，自分の文章スタイルで，ノートにまとめておきなさいと指示をしている。今回は何故このような試験結果になったのか原因が分からない。推測でしかないが，試験時期には同日に 3，4 教科の試験が重なる時がある。学生が天秤にかけ，優先順位を決めて勉強したのではないかと考える。金属加工法 I は技術専修の学生には重要であるが，他専修・コースの学生にとってはそれほど重要視されていないと思われる。

4. まとめ

他専修・コースからの受講者に対して，受講の目的をお互いに確認することにより，丁寧な授業指導を行わねばならないことを認識した。そうすることで技術専修で開講されている他の授業も楽しく受講してくれると思われる。